



幼児教育センターだより

富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課
富山県幼児教育センター

園内研修充実のための研修会（第1回）

【実施日】7月31日（水）

【参加者】幼稚園、認定こども園、保育園（所）の
中堅から管理職の幼稚園教諭、保育教諭、保育士等

【講師】富山短期大学 副学長 宮田 徹 氏
富山県幼児教育センター 幼児教育スーパーバイザー 青山 仁 氏
高見 泰子 氏

【内 容】○講義 「明日の保育が楽しみになる園内研修
～日常的で持続可能な園内研修とは～」
○グループ協議 「充実した園内研修のために①」
・園内研修の成果と課題等の情報交換
○リフレクション ♪♪♪アンケートより♪♪♪



- ・園内研修は、結論を出すためのものではなく、子どもについて保育者同士がいろいろな見方を出し合い、お互いに受け入れて理解を広めていくこと、語り合うことに意味があると感じました。
- ・園内研修をする中で悩んでいたことを理解してもらい、さらに改善のヒントをもらい、前向きな気持ちで園内研修を行えそうだと感じました。職員と楽しく園内研修をしていきたいと思います。

富山県幼児教育推進連絡協議会 専門部会

富山県幼児教育推進連絡協議会では、特定の事項について意見を聞くために、以下の3つの部会を設置しています。

部会で話題になったことを紹介します。

○幼児教育・小学校教育接続部会【実施日：7月29日（月）】

- ・県内の幼小接続の実態
- ・令和6年度以降の幼児教育・小学校教育接続推進の在り方

○幼児教育推進リーダー活用部会【実施日：8月9日（金）】

- ・幼児教育推進リーダーフォローアップ研修、育成研修の内容の検討
- ・幼児教育推進リーダーの強みを生かした活用
- ・県内保育現場の実態調査に向けた質問事項

○幼児教育施設訪問等研修部会【実施日：8月21日（水）】

- ・訪問研修の成果と課題
- ・市町村、関係課との連携の在り方



幼保小の円滑な接続について

—砺波市 幼児教育・小学校教育接続推進研修会から—

幼…幼児教育
※保…保育
小…小学校教育
を表します。

【実施日】8月9日（金）

【参加者】砺波市内幼児教育施設 保育者等

砺波市内小学校 教頭 第1学年担任等

【内 容】・これまでの接続の具体的な取組について

・2学期以降の交流・連携・接続について

＜連携＞

互いに連絡を取り合い、
協力して物事を行うこと。

＜接続＞

つながること。つなぐこと。
（大辞泉より）

砺波市で研修会が開催されると聞き、参加させていただきました。

まず、会場で感じたことは「にぎやかさ」です。保育者と小学校教員が挨拶を交わし、にこやかに話しておられました。小学校区ごとの協議でも、笑い声があちらこちらから聞こえるだけでなく、話に集中するあまり、記録が進まないグループもありました。テーブルを囲んで輪になった座席も、保育者と小学校教員が混ざっており、日頃からの交流の深さを感じました。

砺波市では、市センター主催の研修会（年2回）に加えて、小学校区ごとに、夏季休業中に、保育参観後の合同研修会や保育体験等、自主的な研修会が開催されています。7月末に幼児教育センターが主催したオンライン研修を、保育者が小学校で一緒に視聴し、研修した校区もあります。

幼児教育センターでは、令和10年度を目標に、幼・小接続の主体を、県から市町村に移行できるよう働きかけています。市町村全体で同じ方向を見て取り組むことで、どの園・所・校でも、幼児期からの子どもの学びがつながっていきます。



—H校区の合同研修会の様子—

【9・10・11月の主な予定】

9月

2日（月）第3回ガイド改訂委員会

3日（火）新規採用教員研修会

25日（水）新規採用教員研修会

30日（月）幼児教育推進リーダー育成研修会

（公開園研修@ひらきこども園）

10月

4日（金）幼児教育研究委員会

17日（木）園長等運営管理協議会②

22日（火）第2回富山県幼児教育推進連絡協議会

23日（水）新規採用教員研修会

11月

6日（水）幼児教育推進リーダーフォローアップ研修会

13日（水）高岡地区	地区別 幼児教育・小学校教育 接続研修会
14日（木）砺波地区	
19日（火）富山地区	
21日（木）新川地区	

22日（金）新規採用教員研修会（閉講式）

★高見スーパーバイザーから★

☆今月の一言☆

「保育者が無意識でしている支援を
言語化し、対話を！」

訪問研修に参加していた小学校の先生が、集中して活動している幼児の姿に驚き、「どんな手立てをするとこんなに集中できるのですか？」と、保育者に質問されました。

幼児教育に携わる先生方は、その時々、その場で子どもを見取り、臨機応変に援助をしています。しかし、そこにどんな思いがあったか、どんなねらいがあったかは見えません。だからこそ、互見保育や公開保育、園内研修等では、自分の援助、行動とその理由、活動のねらいを、改めて振り返り、言葉にしておくことが必要なのではないかと思います。

言葉にすることで、自分の保育を自覚し、保育について先生方と話し合うことで、新しい気づきが生まれ、自分の保育のバージョンアップにつながるのではないのでしょうか。

